よみましょう・みましょう

中小企業の脱皮を

田村良平

市民のみなさまお変りございませんか、広報を通じ愚見の一端を申しあげ、よりよい郷土建設のためご指導いただきたいと存じます。

開放経済下世界経済の潮流は烈しく、日本全産業をゆすぶっている現状で特定地域のみがその風からさけることは許されません。

さて、未来明るい田園都市として山と平野、川と海に恵まれた南国市は如何にして発展し得るか、私はまず地場産業開発の再検討に政治の重点を指向すべきだと思います。他力依存のみでなく、まず自身で立上るプランを自身で画くべきだと存じます。最も手近かな農産、山林、漁業などの生産、加工、貯蔵、販売の組織的経営への新構想をうち出すべきではないでしょうか。

資金対策としても現状から或は旧来の姿のままで「如何にしてうまく金を借り出すか」に専念し、経営のみを近代化せんとしても肝心の経営指導の理念が旧態依然では前進はあり得もせん。昨年東京市場では千葉の●トは十億円の売り上げでトップに立ちました。これは指定産地制と金県プール計算制確立がこの成果となったものと思われます。

茶の静岡がハウスに転換する背後に何があるか、園芸王国正にビンチにありと云うべきでしょう。事業の健全な育成対策、安全に伸びる環境対策、こうした基本的要素を細く分析し、『能率的経営の向上』そしてその根本たる人間性の開発を十分検討することこそ今日の産業革命の重要なテーマだと思います。

また、中小企業においても異例の現象としては、三月大阪地区デパートの売り上げの対前年同月比は五・四パーセント増であり、33年9月の二・一パーセントに次ぐ不振が注目されます。39年度の全世帯消費支出の四半期別においても10～12月のように前年同期より減少したのは今度が初めてのケースです。

こうした激動の中で自己を見失うことのないように事業が伸びるためには、やはり自ら探求し、自ら考え、自ら悩み、自らの建設プランを、まず自身で分析綜合研究し、昨今の社用消費の減少、安定成長への自己ペースを如何にささえるかは自己自身の決断として、時代の要請だと思います。

その実例として、『既製服業の近代的工業化へ』のスローガンの下、大阪既製服業界青年層の活動があります。アメリカ業界の視察後、品質の向上、技術の進歩、労力確保などのため35年に近代化協同組合の設立、毎月利益の中から団地計画積立金の実行にかかり、設計から建築までの四年間の努力により、39年4月には全体の施設を完成し、操業を開始するなどの成果をあげました。

この中小企業団地こそは明治以来の商人的伝統に育った大阪既製服界を大企業に劣らない機能と施設を備えた近代工業へと脱皮さしたものです。

ご参考になればと思います。

〝交通事故〟をなくしよう

本年度南国警管内交通事故発生状況

月別＼区分	発生件数	死者	傷者
一月	一六	一名	二三名
二月	一元	〇	一元
三月	一六	〇	二二
四月	一六	一	一七
五月	一七	一	一三
六月	一七	〇	一七
七月	一元	一	一三
累計	一四件	四名	一六三名

七月中の事故原因を大別するとつぎの表のとおりスピード違反による事故が多く起きています。

速度違反　八件
酒酔い運転　二件
無免許運転　二件
無理な追越し　二件
其の他　五件

これを車種別にわけますと、つぎのとおりです。

大型貨物自動車　五
〃　バス　〇
小型貨物自動車　五
〃　乗用自動車　四
自動三輪車　一
自動二輪車　〇
軽自動車（軽四、軽三、軽二）　七
原動機付自転車（一種、二種）　五
其の他（汽車、電車、自転車）　五

つぎに「盛夏の運転」について申しますと、夏は身体が非常に疲れやすいので、自動車を運転する方は、健康管理にとくに注意して下さい。夏の交通事故は、このような疲労による居眠り運転などの事故が多く起きますので、長距離を運行される方は、途中で休養する時間も十分に見込んで、無理のない計画を立てましょう。

〃夏の事故を防ぐため〃

○平素から夜更しや深酒などをつつしみ、身体の条件をととのえる。

○徹夜運転のような無理をしない

○長距離運転では、ときどき休憩する。

○運転の途中で眠くなったときは涼しい木影等で車を停めて休む

○なるべく涼しい時間帯を選んで運転をする。

など十分な注意をして下さい。

本月の特異な交通事故としては去る七月十九日●七時三十五分頃●●●本の国道で、大型ダンプカーが、大型バスに衝突するという事故がありました。

これは、石灰石を積んだ大型ダンプカーが、停留所で発車して間もないバスに、スピードが出すぎていたためと、バスとのすれ違い時における安全の不確認が原因で正面衝突し二十一名の負傷者を出すという大きな事故でした。

もちろんこの事故で、ダンプカーもバスも前部は大破し、当時の恐ろしさを物語っています。（写真参照）

みなさんこのように、ちょっとした油断や不注意がこのような大きな事故を起す原因となりますので、車の運転中は充分慎重に無理のない安全な運転をいたしましょう。

この他にも無人踏切を自転車で渡っていたおじさんが、汽車にはねられ即死するという悲惨な事故がありましたが、このようなことを二度とくり返さないよう十分注意してゆきましょう。

つぎに、稲生小学校五年生岡田健二君が、最近のめまぐるしい毎日の交通事故に思いを寄せ作文をよせてくれましたので、ここにご披露します。

交通の安全作文

稲生小五年　岡田健二

（原文のまま）

「ウー、ウー、ウー」にサイレンを鳴らしながら、けい察の自動車が今日も走って行く。また、事故を起こしたことだろう。みょうにいやな気持ちがする。近ごろ自動車やオートバイが多くなり、目まぐるしいほど走るので、道を歩いているとおそろしい。むちゃくちゃにスピードを出しているものもある。そんなことで交通事故が多いことだろう。

ぼくは、学校へ行く時、そして帰る時道ばたを散らばって歩いている。下級生を見かけると、正しく歩くように注意する。学校からわたされた交通日誌をつけて毎日の出きごとについて反省している。「昨日の交通事故」のテレビを見ていると、交通事故の無い日は、ほとんどない。毎日、どこかでだれかが、きずつき、そして死んでいる。この間のテレビでも、汽車とトラックがしょうとつして大きな事故を起こしている。

また、名古屋でも自家用車が、道を歩いていたおばあさんと、子供をはねて死なせている。車を運転する人が少し注意しておれば、あんなかわいそうなことにはならないと思う。

事故を起こしてからでは、もうおそい。とり返しのつかないことになる。車を運転する人も、道を歩く人も交通きそくを守って注意したら事故は防げるだろう。思わぬ大きなけがをさせぬよう、大切な体を守るため、皆一人一人が交通道とくを守り、心から事故をなくするようにしなければならない。

シールは　回収箱へ

少年補導センター

みんなの広場

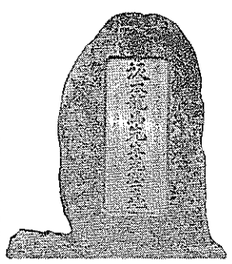
坂本竜馬と才谷部落

南国市の北辺、国道三十二号線に添って才谷という市民に余り知られていない山間の部落がある。

ここは坂本竜馬先えいの地として更談に志す人々が、苔むす墓石ににじみでる勤皇の志を感じながら、回昔の念を禁じ難く、しばし時を惜しむ処である。

どうしてこの地に史跡が生れたか、部落に伝わる口碑と、歴史家にひもどかれた文献をもとにしていささか述べてみたい。

ころはいまをさかのぼること四百年の元亀、天正のそのむかし、豊臣秀吉が千成びょうたんの馬印をおしたて東海道を東へ近江路にさしかかったとき、これを迎えうったのは光秀こう（畝股）の臣明智左馬之介光俊（光春、光昌、光遠の別名あり）であったが、武運つたなく永徳の画きし墨絵の陣羽織りを吹きおろす比叡おろしにひるがえし、愛馬大鹿毛にむちをあてびわ湖を乗り切り（「湖水渡り」の名曲となりいまなを残こされている）坂本城に退き自ら城に火を放ち壮烈な最後を遂げた。



ときに幼児を抱いた光俊の愛妻は、西国にのがれて余生を送ることとなり、それがため縁故の地として平家の落人の住む才谷を選らび、数名の家臣をともない野を過ぎ、山を越えて屋根伝いに当時うっそうたる樹海にみちた、当部落にようやくにしてたどりつき住みついたものである。

抱き育てたその子、（即ち竜馬より数えて十代のむかし、）は初代坂本太郎五郎である。彼の墓地は才谷部落字大坊（むかし延面院佐比谷寺跡）にある、碑は一辺六十糎高さ一尺の角石をうつろとし前方は石の二枚の開閉扉でむし、上方は立帽子型の大石で覆ってある見事な石室の中に安置され坂本太郎五郎墓とあり、二代彦三郎、三代太郎左衛門までは才谷川上流大浜屋敷に墓石はあるが、第四代八兵衛守之は寛文六年（一、六六六年）二十七才のとき、高知市本町三丁目南側で質屋を開らき才谷屋と称し、栄えに栄えていまにすれば数億円の資産を有していた。四代守之以下の墓は高知市小高坂山にある。

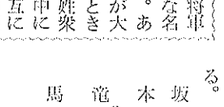
姓を坂本としたのは坂本城にちなんだものである。俊傑の偉業をしのびるになお余りある感じがする。

坂神洛邑国論頻（ナリ）
本意尊皇存（ス）大倫（ニ）
竜耀（ル）雲津（ニ）南海地
馬皮蔵（ニ）骨殉（ズ）維持（ニ）

（倉橋茂山作）

紙面の都合で詳しく述べることのできないのは残念であるが、維新の風雲児竜馬の血は才谷川の清流より発していることを南国市の誇りの一つとして頂きたい。

（才谷　岡英明）



徳川八代将軍吉宗はまれな名君であった。あるとき将軍が大奥に行ったとき御錠口で小姓衆の刀を奥女中に渡すとき、互に手を取り合ったのを見て、中腰になってしかも小声で「たびたびするなよ」といったので双方とも驚き平伏し共に其の寛大なる情に涙を流し互に忠節を尽して奉公したということである。